



NO. 39号
 ≪編集発行≫
 新潟シティガイド
 ≪発行人≫
 神田 剛

代表挨拶



神田 剛

日頃、新潟シティガイドを応援して下さる方々を始め、皆さま方に改めてご挨拶申し上げます。昨年八月から代表を務めております神田剛と申します。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため八月末まで活動を休止し、九月からは予約のある県内のお客様に限定したガイド活動となりました。このため、申込を頂きながらお断りをせざるを得なかったことも少なくありませんでした。この場を借りまして、ご理解を賜りましたことに対して改めて感謝を申し上げます。

昨年度の活動状況ですが、十二月までのお客様延べ数は約八百人となっており、一昨年度と比較して激減しているものの、一方で感染防止対策を取りながらのまち歩きが一樣の軌道に乗ったことに安堵をしています。今後新型コロナウイルス感染状況に合わせた対応を取りながらのガイド活動とならざるを得ませんが、よろしくお願いいたします。

新潟シティガイドは、この四月で設立十四年目を迎えます。新潟市主催の観光ボランティア養成講座を終了した第一期生によって創られ、その後第二期生から第五期生までが加わり、これまで延べ三万四千人の方々にガイドをさせて頂きました。ガイドの実施回数は、退会された方等も含めて六千四百回に上ります。ボランティアでのガイド活動が十三年という長期に渡って継続されてきた要因は、発

- ・聞いたことは忘れる
- ・見たことは思い出す
- ・体験したことは理解する
- ・発見したことは身につく

整理され、共有されてきたことが大きいと感じています。

会則では、ガイド活動を通じて、会員自身が楽しみ、学び、活動すると謳っていることが、会員のモチベーションの維持に繋がっていることを私も実感として強く感じています。

また、観光のあり方が、団体観光から個人やグループで自由に楽しむというやり方に変わってきたという点も見逃せません。お客様は、訪れた場所を感じた自身の想いを大切なお土産として帰られますが、ガイドの話を聞き、やり取りもしながらそれを創られるのだと思います。この点から考えると、新潟市は富士山やお城といった大きな看板を持たないため、逆に先入観を持たずに自由なイメージを広げることのできる、まち歩きに適した街のように思います。新潟シティガイドは自主独立のボランティア団体です。このため、活動を理解して下



さる個人の方々、新潟市役所や新潟市歴史博物館を始めとした様々な組織の方々に運営面や知識・経験を学ぶという機会を提供していただくという様々な面で支えられています。今後もお客様や皆様のご理解を頂きながら、会の活動の充実を図って参りたいと思います。よろしくお願いいたします。

えんでこ ガイド

砂の町にいがた 新潟砂丘を歩く



渡辺 博

今回の「えんでこ」は、新型コロナウイルス感染防止を踏まえ、定員一五名、コースも一部を変更し、三〇分短縮版という形で実施された。十月二十四日、朝から雨模様で参加者の減少が心配されたが、欠席は一名のみで、ホッと胸をなでおろす。集まった十四名を三班に分け、豪商の館から新潟砂丘へ定刻通りスタートだ。幸い雨は止んだものの、参加者と密にならないよう距離を取るため、ハンズフリーマイクを使用してみた。しかし、マスクをした状態でのマイク使用は、声がかもり、音量の微調整に悪戦苦闘してしまう。



さて、一行は旧齊藤邸から出発し、四年前放映された「ブラタモリ」で人気コースの新潟砂丘を目指し歩き始めた。まずは御屋敷通りから西大畑公園へ入り、歌人で新潟新聞主筆・山田花作の「柳散る 秋の西堀東堀 さびしきころよ 恋のみなとも」の歌碑で古き新潟を懐かしむ。そして、いよいよ新潟砂丘

の入り口、二葉町へ向う急な階段に取りかかる。途中で振り返り、「ここから富士山が見るから探しましょう」と呼びかける。皆、「え？富士山？」と驚き顔だ。皆が夢中になって探す中、種明かしをする。西堀通りのビル壁に富士山が描かれているのだ。これには皆から笑いが起き、一気に場が和む。

ここから階段を上りきると、立派な防風林が続く。この防風林は、かつて飛砂に苦しめられたことを機に江戸時代から昭和にかけて、小学生から大人までみんなで育んだものだ。

そこから坂を下ると勤王論者で幕府の弾圧で無念の死を遂げた竹内式部の墓碑があり、皆で手を合わせる。



もう海岸は目の前だ。新潟砂丘のメインである高さ九メートルの日和山展望台に上り、まずは市内を見下ろす。そこでクルッと振り返り、海岸線

がどう変貌を遂げたかを説明する。

また、薄っすらとではあるが、佐渡が望め、皆から「ウワァー」と歓声があがった。さて、とうとう最後の見学地に到着だ。標高十二・三メートルの「日和山」である。まずは「住吉神社」を参拝する。

ここで江戸時代に北前船を新潟湊に入港させるため手助けをした「水戸教」など日和山に関わる物語についてもガイドする。

こうしている間に一時間半が瞬く間に過ぎ、別れの時間を迎えた。コロナ禍、人と接する時間が減っている中、皆と和気あいあい過ごせたことは私にとっても幸せな時間であった。感謝の気持ちでいっぱいである。



カトリック新潟教会を訪れて



羽賀 五郎

去る十一月七日「えんでこ」西大畑お屋敷町散策コースを参加者十五名で新型コロナウイルス感染症防止対応しながらガイド三名で実施しました。

所要時間百二十分が九十分短縮、立ち寄り先のカトリック新潟教会以外は外観からの説明に重きを置きました。

本題ですがカトリック新潟教会の来歴をご紹介します。

明治十八年に東大畑の地に最初の教会が建てられました。明治四十一年の大火で焼失。現在の教会は一九二七（昭和二年）年当時の教区長だったドイツ人アントニオ・チェスカ師により新しく聖堂が献堂され「王であるキリスト」の称号をいただいた教会となり昭和三十七年司教座聖堂「カテドラル」に指定を授かる。依って新潟県、山形県、秋田県の教会を包括する新潟司教区の中心教会に位置づけられて居ます。

長い歴史を語り継ぐかのような二つの尖塔がそびえる素晴らしい設計は世界的に著名な建築家スイス人のマックス・ヒンデル（一八八七〜一九六三）によるものです。



されました。聖堂中央の右側にはレプリカですが「ピエタ像」が展示されています。「ピエタ像」とは聖母子像の一種で慈悲を意味し、磔刑に処され十字架から降ろされたイエス・キリストの亡骸を聖母マリアが腕に抱いている彫刻や宗教画を指します。作者はミケランジェロ（一四七五〜一五六四）で二十四歳の時に制作した大理石の彫刻。実像はカトリックの総本山バチカン市国サン・ピエトロ大聖堂で拝観でき、唯一本人がサインした作品としても有名です。

なお、カトリック新潟教会は入・退館はオープンです。是非何度も訪れて観賞して下さい。新たな感動を求めて「えんでこ」しましょう。

大正十三年札幌市に移住し教会建築を中心に多くの建築物を設計。現存する代表的なもの、昭和二年天使の聖母トラピスチヌ修道院、昭和三年カトリック神田教会、昭和六年金沢聖霊修道院聖堂、昭和七年宇都宮市カトリック松が峰教会、カトリック十和田教会他学校、病院等多方面にわたる。十六年間活躍し昭和十五年ドイツに帰国。

教会には、ステンドグラスが付き物です。平成八年に聖堂を修復した際、一部は佐渡・米沢の絵柄が（フイレンツェ製）フランシスコ会から寄贈



港料理 「魚や 片桐寅吉」 カフェ「港茶屋」



石田 幾子

オープンしたばかりという和風レストランの「魚や片桐寅吉」で海鮮ランチを頂いてきました。

お店は築百十六年の商家だった片桐寅吉氏の住宅を改修したものです。

新潟中央水産市場の藤田社長さんがお忙しい中、片桐家ゆかりの「片桐山 吉祥院」と片桐 寅吉氏のご自宅だった店内をご案内してくださいました。

明治時代に鮮魚問屋をされていた片桐家の、新潟港の繁栄を物語るような銘品、銘石を沢山見せて頂きました。

三月には長く伝わるお雛様の展示もありました。

作庭は、初代後藤石水と言われる池泉回遊式庭園を、お座敷で食事を頂きながら楽しめる事はとても贅沢な時間でした。



二月には片桐家が国の登録有形文化財になりました。新潟中央水産市場の直営なので食材は新鮮です。シティガイド研修とは名ばかりで、久しぶりにお会いした皆さんと美味しいランチと楽しい時間を過ごしてきました。食後の雪室コーヒーは口当たりもまるやかで美味しくいただきました。ごちそうさまでした。

吉祥院

北洋漁業家の片桐寅吉は真言宗を熱心に信仰し、私財を投じて真言宗寺院、片桐山吉祥院を建てました。

現在お寺は建物のみで住職はいませんが、境内には魚を載せた籠を手にした観音像が立っています。名前は魚籃(ぎよらん) 観音。魚を抱いた観音という意味です。



片桐家は二代にわたって北洋漁業を続け、その後新潟中央水産という会社組織になりました。魚籃観音は新潟中央水産の寄進になっています。



新大附属中学校 バーチャルまち歩き参加記



倉地 一則

が担当しました。二人ともカメラに向かってガイドするのは初めてです。話しかける相手がいなくてペースを掴むのが難しかったというものの、カメラ目線でリポーター役が決まっていました。

映像を視聴した後、生徒たちから質問を受けました。「コースプレなど新しいものと歴史ある古いものとの融合は「ガイドを始めようと思った理由は「今も残っているソフト面で港町ならではのものは「ガイドの飲みや誇りをどんな時に感じるか」など、中学生と思えない鋭い質問に、ガイド代表も回答に窮する場面もありました。最後に、参加したガイド六人全員が、新潟の魅力やガイド活動にかける熱い思いを語りました。

令和二年十月二日、新潟大附属中学校で開かれた「バーチャルまち歩き」に参加しました。二年生の「生き方探求」の授業で、古町将来ビジョンの提案を作るのが目的です。昨年は下町エリアでまち歩きを実施し、今年は古町周辺を歩く予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ガイドが案内する様子を先生がビデオ撮影し、その映像を生徒に見てもらって質問を受けるという形式になりました。

西大畑エリアは「古町老舗と花街巡り」コースのうち、浅川園からイタリア軒まで神田剛さんが担当。収録日は風が強くて音声が聞き取り難かったため、上映時に生解説をしました。白山エリアは「上古町・本町界限今昔物語」コースの一部を、二瓶芳枝さん

十一月十九日には、生徒たちの古町将来ビジョン具体策の発表会に招かれました。新潟市役所職員や商店街代表と共に、四班に分かれてプレゼンを聞き、質問とアドバイスをしました。粗削りながら十歳歳の新鮮な視点からの提案であり、古町再生に活かしてほしいと思います。ネットを駆使して良くぞ調べたなど感心するも、現地に行っていないバーチャルまち歩きの限界を感じました。新型コロナウイルス

イルス感染症が終息したら、次はぜひ現地を案内したいと思います。



Instagramで魅力を発信 #みつめて中央区 フォトコンテスト

佐藤 祐美子

今回新潟市中央区役所地域課より、「#みつめて中央区フォトコンテスト」の審査員の依頼が新潟シティガイドにありました。当会からの審査員人数は3名（代表、前代表、広報）で一月二十八日に中央区役所へ行って来ました。

SNSを活用して、市民の皆さんに中央区の魅力を発信してもらおう企画で、中央区内

の様々なスポットに興味を持ってもらうとともに、中央区の魅力を再発見することが目的です。

最近はこの様なInstagramなど市民参加のフォトコンテストを目にする事が増えました。撮影技術もプロ並みで甲乙つけがたい写真の数々でした。

審査基準は、中央区の魅力をつたえるものです。審査員六名で何度も投票して決まりました。入賞したものは区だよりでの特集で紹介され、また区公式アカウントで紹介されました。また三月八日よりNEXT21の一階アトリウムでパネル展もありました。



コンテストには景品もあり、応募も盛り上がり来年も開催予定です。

皆さんがよく見て知っている所でも、季節や時間帯、見る角度など本当に様々で新しい発見もありました。

今回のグランプリ作品は、中央区のイメージカラーである「ウオーターフロントブルー」に合っているという感想をきいて、なるほどと思いました。

シティガイドとしても中央区に生活している者としても勉強になり、また新しい魅力発見をこれからも探し続けたいと思います。



Instagram



広報紙
Back Number

広報からのお願い

- 1 広報紙「新潟シティガイド」の原稿依頼
広報紙の紙面は、会員の皆さんの投稿原稿で成り立っています。原稿依頼をお願いすることがあると思いますが、ご協力をよろしくお願いいたします。
- 2 「新潟まち歩きブログ」への投稿依頼
「新潟シティガイド」をより多くの方に知って頂くため、投稿をよろしくお願いいたします。
なお、原稿を頂ければ代わって投稿も致します。

* 次回の広報紙は
十月発行予定です。



編集後記

年が明けて新型コロナウイルス感染症はますます広がりが、一月には一都三県に緊急事態宣言が出され、ニュースでの感染者人数に驚く毎日でした。昨年の今頃は、来年には日常生活が戻り、オリンピックにわく姿が想像されましたが、今は、自身の行動一つ一つを、よく考えて行動するようになりました。

今年の新年に中央区三和町の三社神社にお参りに行きました。流作場の総鎮守で、神社には「玄的の青蛙」という蛙がいて「艱難に克つ」と書いてありました。今の状況が少しでも良い方向に向かうよう手を合わせました。

おみくじは大吉で「学ぶ姿勢をととのえて」と書いてありました。今は出来ないことも多々ありますが、時が来るまで準備はできます。その言葉を胸に日々を大切に過ごしています。

(広報 佐藤)